

地区防災計画 をつくってみましょう！

【次 第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 地区防災計画と導入版について
4. 導入版をつくってみよう！
 - ①作業方法の説明
 - ②各自主防災組織で作成
 - ③発表
5. 閉会

3. 地区防災計画と導入版について

3. 地区防災計画と導入版について

(1) 地区防災計画について

(1) 地区防災計画の第一歩・ステップ1

地区防災計画の4つの誤解とホント

■ **地区防災計画は行政が行うことではありません。**

「行政から住民へ」と防災の担い手の幅を広げ、小さなことでも良いので、住民主体で何かにとりくむこと、それが地区防災計画です。行政はその手助け役です。

■ **地区防災計画は計画書を作ることではありません。**

計画書やマニュアルなど書類を作ることが目的ではなく、住民の視点、地区の特徴を活かした活動を実際に進めることが地区防災計画です。

■ **地区防災計画はどの地区でも一緒ではありません。**

「お隣では津波避難訓練をしているからうちでも…」ではなく、自分の地区の特徴を生かして、自分の地区にしかない「オンリーワン」の活動を手作りで！

■ **地区防災計画は一度きりで終わりではありません。**

地区防災計画とは、一度何かを実施し終わりではなく、「計画→実施→ふりかえり」を繰り返して、改善を重ねながら長期間続けていくものです。

※令和4年度自主防災組織研修会・杉山先生（現九州大学准教授）講演資料より

(1) 地区防災計画について

■構成の例

0. はじめに

- ・計画の目的
- ・基本的な考え方

1. 地区の特性

- ・対象とする区域
- ・地区の特性
- ・防災マップ

2. 活動体制

- ・本部
- ・班構成と活動内容

3. 災害時の活動

- ・本部と各班の活動
- ※水害時／震災時を分ける場合は明記

4. 平常時の活動

- ・各家庭で取り組むこと（自助）
- ・地区で協力し合って取り組むこと（共助）

5. 今後の活動に向けた課題と方向性

3. 地区防災計画と導入版について

(2) 導入版について

考えておくといよいことを
広くカバー

「地区防災計画」
作成の手引き

目次

I. 「地区防災計画」の作成にあたって	1
1 準備の段階	1
2 検討の進め方	2
3 検討を進めるにあたって	3
4 地区防災計画の構成(例)	4
II. 「地区防災計画」の検討のポイント	5
1 計画の目的と基本的な考え方	5
2 地区の特性	5
3 活動体制	8
4 災害時の活動	8
5 平常時の活動	9
6 今後の活動に向けた課題と方向性	13
III. 計画ができたなら	14
1 計画提案の手続き	16
2 計画の見直し	16
IV. 資料	16
V. 検討会の準備	17
1 検討会の実施にあたっての留意点	23
2 最終交換の進め方	24
3 検討会の進め方	25

詳しくは
市のホームページを
ご覧ください

地区防災計画 **導入版** を
作ってみましょう！

●対象とする区域：

★それぞれの自主防災組織の範囲を、図または文章で書いてみてください。

(例)・〇〇自治会の区域

・〇〇町〇番～〇番

・複雑な場合は図だけでもOK！(下に図を貼っておきましょう)

●対象者

★実際には、まず町会・自治会に入っている方が中心になりますが、入っていない方も含めた全ての方に広げていくことを目指して、「〇〇町会・自治会の居住者、事業者など町会内にいるすべての人」としてください。



令和 年 月

“**第一歩**”の
きっかけに！

【参考】災害時・平常時の活動から今後の活動(課題)を考えるポイント(地震・水害)

★災害時・平常時の活動から今後の活動課題を考える例です。地震発生の場合を基本に作成しておりますが、水害にも重複する内容があります。これを参考に、災害時に必要となる活動から、現状何が課題で、平常時から何を準備し、考えておくのがよいかがまとめておきましょう。担当班(者)は現在の班体制に沿って配置を見直し、体制が決まっていな場合は、話し合って役割を決めてみてください。なお、あくまで例のため、これ以外にも必要な活動を考えてみてください。

①【地震】発生直後から数時間

災害時 (必要になる活動)	問い	状況	今後の活動(課題) 6ページへ	担当班(者)	水害時の検討
被害・被害状況など情報の収集・共有、伝達	情報を収集・共有・伝達する方法、内容を決めていますか？	決めていない	方法(LINEなど)や内容を考え、連絡体制を決めておく。	全員(総務・情報連絡班が中心)	○
	電話が通らない(電話・メール・SNSがつかない)場合の連絡手段は決めていますか？	決めていない	公民館など場所を決めて集合し、情報を集約するようにする。	全員(総務・情報連絡班が中心)	○
避難誘導活動	発生した火災は消火器などで消火できる大きさですか？	できる (初期対応可能)	避難室に連絡する担当者を決めておく。 日頃から訓練を通して消火器の取扱い、点検、使用方法を習熟する。	消火・救護班	○

導入版

地区防災計画

●対象とする区域：

●対象者：

令和 年 月 第 版

団体名：

この後、作成してみましよう！

1. 地区の概要

(1) 地区の特性

令和〇年〇月〇日現在

①自主防災組織の区域の状況

加入している世帯数

おおよそで結構です

・世帯数： 世帯

・人口： 約 人

・支援が必要な人： 約 人

・一時的に身の安全を確保する場所（指定緊急避難場所）

地震

水害

ハザードマップ15ページから探してください

・自宅で生活できなくなった人同士が共同で生活する場所（指定避難所）

地震

水害

ハザードマップ15ページから探してください

・町会・自治会の土地の高さ（標高）は 約 m

・町会・自治会内に狭い道路（道幅4mに満たない道路）が、 ある ・ ない

インターネットで「地理院地図」を検索

⇒「地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院」を開くと画面左下にあります

②想定される災害

ハザードマップ34～35ページから探してください

・【地震】今後30年以内に70%の確率で発生すると想定されている東京湾北部地震において、当地区の震度は 6弱 ・ 6強 全壊率は %以上 %未満、液状化の可能性は 高い ・ やや高い ・ 低い ・ 極めて低い が予想されます。 ハザードマップ4～5ページから探してください

・【水害】氾濫した場合に最も浸水範囲が広い、利根川が氾濫した場合において、当地区の浸水深さは m、浸水継続時間は 時間（ 日間）が予想されます。

・過去に発生した災害と被害

いつ、どのような災害が、地区のどこで起こったのか書いてください。
 (例) ・令和〇年の集中豪雨で、〇〇町〇番地付近で水があふれた。
 ・〇〇地震の時に、食器棚が倒れた家があった。

2. 備蓄品リスト等

(1) 備蓄品リスト

担当班	担当者	品名	数量	保管場所	更新予定	備考
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	

★既にリストがあれば、それを貼り込んでください。

★期限の確認が必要とお考えの場合でも、ひとまず現在の内容で書き込んでみましょう。

					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	
					年 月	

(2) 倉庫等のカギの管理

施設	正	副
備蓄倉庫		
集会所	★既にリストがあれば、それを貼り込んでください。	
指定避難所・門		
指定避難所・体育館		

3. 活動体制

★既に体制図があれば、それを貼り込んでください。

★見直しが必要とお考えの場合でも、ひとまず現在の体制を書き込んでみましょう。

【例】



【本部】〈設置場所〉 震災時：〇〇公民館 水害時：〇〇〇学校

本部長：町会長・自治会長

本部長：

本部長：

氏名 _____

氏名 _____

氏名 _____

住所 _____

住所 _____

住所 _____

電話 _____

電話 _____

電話 _____

副本部長：副会長

氏名 _____

氏名 _____

氏名 _____

住所 _____

住所 _____

住所 _____

電話 _____

電話 _____

電話 _____

電話 _____

電話 _____

総務・情報
連絡班

班長： _____
班員： _____

消火・救護班

班長： _____
班員： _____

要配慮者
支援班

班長： _____
班員： _____

物資・
避難所班

班長： _____
班員： _____

4. 平常時・災害時の活動

(例) 地震・水害共通 班体制と活動内容

★班体制と活動内容の例です。現在の班体制に合った形にしてみてください。

役職・班	平常時の活動内容	災害時の活動内容
全員共通	・班編成 ・連絡体制の構築 ・訓練の計画、実施 ・地区の特性、想定災害の把握 ・危険箇所などの確認・周知 ・物資及び資機材の種類・数量・保管場所の把握 ・個人備蓄などの啓発活動 ・気象情報の収集	・連絡体制の確認 ・安否確認
本 部	・各班の必要人数、責任者及び担当の振り分け ・会長の補佐、代理の振り分け ・指定避難所や市との連絡方法の確認 ・近隣の団体と調整 ・自主防災組織班編成表の作成	・情報収集（避難者の把握など） ・市や関係団体との連絡 ・本部の設置、運営 ・全体の指揮 ・会長の補佐、代理 ・各班の統括（班員の差配、班の再編など） ・避難行動要支援者名簿、安否確認票の準備 ・指定避難所開設運営の協力を指示
総務・情報連絡班	・安否確認票の作成（要配慮者支援班と協力） ・情報収集、共有、伝達方法など連絡体制の検討 ・広報活動方法の検討	・被害・避難状況など情報の収集、共有、伝達（各班の情報を本部へ報告） ・広報活動
消火・救護班	・物資、資機材の調達・管理・運搬（物資・避難所班と協力） ・資機材の点検、使用方法の習得 ・避難時の防火、防犯対策の検討 ・消防署への連絡担当者の検討 ・避難誘導方法の検討（要配慮者支援班と協力）	・避難誘導（要配慮者支援班と協力） ・初期消火活動 ・消防署へ連絡 ・要救出者の確認、救出 ・資機材の確保 ・軽症者の救護活動 ・避難行動要支援者の状況の把握、支援（要配慮者支援班と協力） ・在宅避難者の把握、生活支援（要配慮者支援班と協力） ・物資の運搬（物資・避難所班と協力） ・町会内の巡回などの広報（ブレイカーの遮断、危険箇所の立入り禁止などの措置）

要配慮者支援班	・安否確認票の作成（総務・情報連絡班と協力） ・避難行動要支援者の把握（名簿作成・場所の確認）及び避難誘導方法の検討	・避難誘導、避難行動要支援者への避難の意思確認（消火・救護班と協力） ・安否確認（総務・情報連絡班へ報告） ・避難行動要支援者の状況の把握、支援 ・在宅避難者の把握、生活支援
物資・避難所班	・物資、資機材の調達・管理・運搬（消火・救護班と協力） ・資機材の点検、使用方法の習得 ・指定緊急避難場所、指定避難所の確認 ・災害時のトイレ対策検討 ・ごみ出しルールの検討 ・着替え場所など女性への配慮の検討	・物資の確保・運搬・配分 ・炊き出しで使用する食料・燃料確保 ・指定避難所開設運営 ・ライフライン（電気、ガス及び水道）やトイレの利用可否確認 ・災害時トイレの設置 ・給食・給水 ・物資の需要の把握 ・避難所内の巡回 ・ごみ出し方法のルール化

■時間経過にともなう活動のイメージ

【地震の場合】記載例

★時間経過にともなう活動の例です。合体させたり分けたりして、現在の班体制に合った形にしてみてください。

役割・班	発災直後～数時間	発災当日～3日程度	3日～1週間程度	1週間以降
本 部	○情報収集（避難者の把握など） ○本部の設置・運営 ○全体の指揮 ○各班の統括（班員の差配、班の再編など） ○避難行動要支援者名簿・安否確認票の準備 ○市や関係団体との連絡 ○指定避難所開設運営の協力を指示			
総務・情報連絡班	○被害・避難状況など情報の収集、共有、伝達（各班の情報を本部へ報告） ○広報活動			
消火・救護班	○避難誘導 ○初期消火活動（消火活動人員の割振り、活動指示含む） ○消防署への連絡 ○要救出者の確認（救出人員の割振り・救出指示、搬送人員の割振り含む） ○資機材の確保	○軽症者の救護活動 ○避難行動要支援者の状況の把握、支援 ○在宅避難者の把握 ○物資の運搬	○町会内の巡回などの広報 ○在宅避難者の生活支援	
要配慮者支援班	○避難誘導 ○安否確認	○避難行動要支援者の状況の把握、支援 ○在宅避難者の把握 ○在宅避難者の生活支援		
物資・避難所班		○物資の確保・運搬・配分 ○炊き出しで使用する食料・燃料の確保 ○指定避難所開設運営 ○ライフラインやトイレの利用可否確認 ○災害時トイレの設置 ○給食・給水 ○物資の需要の把握 ○避難所内の巡回 ○ごみ出し方法のルール化		

【水害の場合】記載例

★時間経過にともなう活動の例です。合体させたり分けたりして、現在の班体制に合った形にしてみてください。

		避難前	避難中	避難発生のおそれ 避難時～避難後	避難発生	台風が去って 落ち着いてから
警戒レベル		1	2	3	4	5
気象庁の情報		早期注意情報 (警戒級の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報		大雨特別警報
避難情報 (市が発令)			市からの避難情報は 状況に応じて出します	避難注意情報 避難警戒情報 避難指示	避難発生情報 (※緊急安全確保)	
観測所の水位			氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	
役割・班						
全員共通			○台風や降雨などに関する気象情報の収集 ○避難の準備 ○連絡体制の確認	○安否確認 ○在宅避難、垂直避難など注意の呼びかけ ○避難所開設の判断（市）		
本部			○避難行動要支援者名簿・安否確認票の準備 ○市や関係団体との連絡 ○本部の設置（の判断）・運営 ○全体の指揮 ○避難所開設運営の協力を指示			
総務・情報連絡班		○台風や浸水対策などの情報発信		○被害・避難状況など情報の収集、共有、伝達 (各班の情報を本部へ報告)		
消火・救護班		○資機材の確保		○避難行動要支援者の避難支援 ○在宅避難者の把握		○在宅避難者の生活支援
要配慮者支援班			○避難行動要支援者へ避難準備の連絡（声かけ）、 避難の意思確認 ○避難行動要支援者の避難支援 ○在宅避難者の把握			○在宅避難者の生活支援
物資・避難所班		○物資の確保		○避難所開設運営		○ごみ出し方法のルール化

5. 今後の活動を決める

資料 【参考】災害時・平常時の活動から、今後の活動を考えるポイント（地震・水害）において、問いに対する答え（現況）が（決めていない）や（出来ていない）などの答えであった項目は今後の課題として皆さんで考えてみましょう。

事例

No	現況	目標	どうやって (今後の活動)	誰が (担当)	いつ (実施)
例 1	被害・避難状況などの情報の収集、共有、伝達する方法を決めていない。	連絡体制を決めて、情報収集を行う。	方法（LINE など）や内容を考え、連絡体制を決める。	全員（総務・情報連絡班が中心）	令和 5 年実施
例 2	消火器の使用方法がわからない。	消火器の使用方法を役員全員が習得する。	防災訓練などで消火器訓練を取り入れる。	消火・救護班を中心に役員全員	令和 5 年防災訓練で実施
例 3	倒壊のおそれのある物（建物、空き家、ブロック塀、自販機）や道幅の狭い道路など危険箇所を把握していないため、避難路が決まっていない。	発災時に安全に避難できるような危険箇所を把握する。	まち歩きで確認、近所の方の話を聞いたりして把握できた場所を地図におとす。また、ハザードマップを確認する。	消火・救護班、要配慮者支援班が中心	令和 5 年ゴミゼロ運動後実施
例 4	自主防災組織で所有している物資、資機材の種類、保管場所、使用方法を一部の役員のみ把握し、訓練は年 1 回実施している。	物資、資機材を役員全員が把握し、資機材の使用法を習得する。	年 2 回の訓練などで物資、資機材の種類、保管場所を確認し、資機材の使用法を確認する。	消火・救護班、物資・避難所班が中心	令和 5 年 5 月、10 月に実施

6. 区域図

★ハザードマップ 16～25 ページの「洪水ハザードマップ詳細版」から、自主防災組織の活動区域の周辺をコピーし、活動区域を書き込んで、貼ってください。凡例も忘れず貼っておきましょう。

★さらに、町会・自治会の会館などの使える場所や、「1. 地区の概要」で書いた過去に被害があった場所、被害が起こりそうだと思う場所も書き込んでみてください。（訓練としてまちを点検してみる際の参考にすることができます。）

★市では白図を用意しています。もしよかったら使ってください。

4. 導入版を作ってみよう

●タイトル

⇒地区名を入れましょう。

●対象とする区域

⇒みなさんの自主防災組織の範囲を、図または文章で書いてみてください。

(例)

- ・ □□自治会の区域
- ・ ○○町○番～○番
- ・ 複雑な場合は図を貼ってもOK！

●団体名

⇒自主防災組織名を入れましょう。

導入版

地区防災計画

●対象とする区域：

●対象者：

令和 年 月 第 版

団体名：

さっそく
導入版を
作ってみましょう



●対象者

⇒実際には、町会・自治会に入っている方が中心になりますが、入っていない方も含めた全ての方に広げていくことを目指して、

「□□町会・自治会の居住者、事業者など町会内にいるすべての人」としててください。

時間があれば
考えてみましょう！



この後、導入版の作成を進めるにあたって

- 班の構成と取り組みは今のままでよいでしょうか？
- 今後、取り組みが必要なこと
- その中で、特に取り組みたいこと
- 今年の防災訓練で、工夫してみたいこと など

5. 閉会

(3) 今後の進め方について

